

分担研究報告書

分担研究のタイトル 地方ブロック DHEAT 協議会内での連携体制の強化

研究分担者 氏名（所属）小倉憲一（富山県厚生部医務課）

研究協力者 氏名（所属）池田 和功（和歌山県岩出保健所）、石井 安彦（北海道釧路保健所）、武智 浩之（群馬県健康福祉部健康感染症・疾病対策課）、大木元 繁（徳島県三好保健所）、服部 希世子（熊本県有明保健所）、市川 学（芝浦工業大学システム理工学部）、富尾 淳（国立保健医療科学院健康危機管理研究部）

研究要旨：地方ブロック DHEAT 協議会単位での DHEAT 訓練を実施し DHEAT 連携体制について検討した。地震などの大規模災害での急性期にはまずは近隣自治体からの迅速な DHEAT 先遣隊派遣などの被災地支援が有効であり、そのためには平時から訓練などを通じて地方ブロック DHEAT 協議会内の DHEAT 班員間で顔の見える関係を構築しておくことが大切である。

A. 研究目的：DHEAT の体制について更なる強化が必要であることから、令和5年3月28日付け健健発 0328 第2号厚生労働省健康局健康課長通知「災害時健康危機管理支援チーム活動要領の改正（DHEAT に係る協議会の設置及び保健所現状報告システムなどの運用）について」により、①地方ブロック DHEAT 協議会の設置、②災害保健情報システム（「保健所現状報告システム」「保健師等派遣調整システム」「DHEAT 派遣調整システム」など）の運用（ICT の活用）についての周知、③令和5年度より統括 DHEAT 研修の開始がなされた。

上記内容を踏まえて、今後、地震などの大規模災害で出来るだけ発災早期から被災地での保健医療福祉に関する迅速な支援体制を構築し強化していくためには、平時から近隣自治体となる地方ブロック DHEAT 協議会内での連携体制の強化を図っていくことは重要であり、今回、今後の地方ブロック DHEAT 協議会の連携体制の強化の在り方について検討するために本研究を実施した。

B. 研究方法：地方ブロック DHEAT 協議会単位で本部組織体制の確立などの初動対応の訓練などを実施してその訓練の振返りを行うことによって DHEAT の派遣について課題の整理を行うとともにその課題についての検討を行う。

倫理面への配慮：本研究においては個人や都道府県などの自治体を特定するような情報の公表、取り扱いを行わないこととした。

C. 研究結果：DHEAT 先遣隊などについては被災地までの移動が比較的短時間であることや、被災地の地理的背景や気候への熟知、被災地域での人脈などから近隣県である地方ブロック DHEAT 協議会などからの優先的派遣が有効であると令和6年能登半島地震の経験からも想定されていた。

本研究では地方ブロック DHEAT 協議会からの DHEAT 先遣隊の派遣をより実効性のあるものとするために、地方ブロック DHEAT 協議会から派遣された DHEAT 先遣隊が実際にどのような活動を被災地で行うか（DHEAT の役割）、D24H なども活用しながら特に避難所などの被災者や環境に関する情報を市

町村からどのように都道府県保健医療福祉調整本部で把握していくか(行政の層構造)ということ念頭に訓練を実施した。

被災地に派遣された DHEAT 先遣隊が被災地域で組織的に機能し、DMAT が医療活動を中心に活動する中、避難所などの被災者を対象とした保健・福祉を中心に発災早期から必要とされる支援を DHEAT が実施していくためには都道府県保健医療福祉調整本部内に被災地に派遣した DHEAT 全体のロジスティクスとなる DHEAT 都道府県調整本部(仮称)の設置が必要である。

さらにこの DHEAT 都道府県調整本部では保健師チームの調整担当とともに保健所や市町村に設置された地域保健医療福祉調整本部から被災者や環境に関する公衆衛生情報を収集し保健・福祉を中心に支援していくこととなるが、この様な役割を果たす DHEAT 先遣隊としてはまずは、被災地域の保健所の所長などと顔のみえる関係にある県内または地方ブロックからの DHEAT 先遣隊が適している。

都道府県保健医療福祉調整本部の本部長を補佐する統括 DHEAT を支援する DHEAT についても平時から保健・医療・福祉の全般に亘ってつながりの強い隣県からの DHEAT 先遣隊による支援が有効である。

D. 考察：都道府県保健医療福祉調整本部において統括 DHEAT を支援する DHEAT は県全体の被災者の医療・保健・福祉の全般に亘って情報収集を行うとともに本部全体を統括し会議体の開催や都道府県災害対策本部、厚生労働省などへの情報を提供していく本部長、統括 DHEAT の補佐をしていくこととなる(図1)。

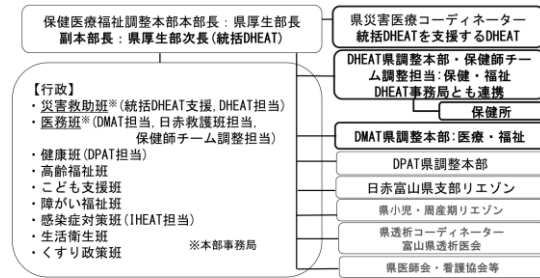


図1. 富山県保健医療福祉調整本部組織

都道府県保健医療福祉調整本部においてはこの DHEAT とは別に、医療を中心に担う DMAT などと役割分担し被災地に派遣された DHEAT 全体を組織化し発災後、保健所や市町村などから保健・福祉を中心とした公衆衛生に関する情報(避難所などの被災者や環境に関する情報の把握など)を収集し被災地を支援していく DHEAT 全体をまとめていく組織体制が特に大規模災害においては必要となる。

被災地の状況が日々変化していく、特にライフラインが厳しい環境下にある急性期の DHEAT 派遣をサポートしていく DHEAT 都道府県調整本部を、都道府県保健医療福祉調整本部内に設置する必要がある。

またこの組織的な支援活動においては都道府県や地域の保健医療福祉調整本部において DHEAT 先遣隊が保健師チームの調整担当と連携・協力して避難所や在宅の被災者や環境に関する情報のとりまとめを行って、被災者を支援していくことが効果的である。

保健所や市町村の地域保健医療福祉調整本部に派遣された DHEAT 先遣隊の役割としては保健師チームの統括者を支援し、避難所などの被災者や環境に関する公衆衛生を中心とした被災状況の把握をするとともに、他の保健医療福祉活動チームとも連携・協力して活動は必須である(図2)。

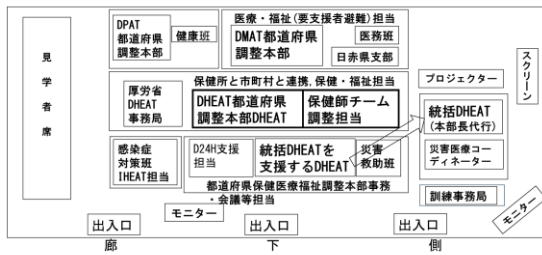


図2. 富山県保健医療福祉調整本部配席図
(R6年度東海・北陸ブロックDHEAT実働訓練)

一方で DHEAT 先遣隊は保健所長の補佐役であったり、平時からある保健所業務の BCP 部分の支援に入ったりすることはできても、DMAT ロジスティックチームの様に保健医療福祉の全てを統括する地域保健医療福祉本部長のロジスティックの役割を急性期から果たしていくことは、医療が主となる急性期の大規模災害においては現段階では能力的に困難と思われる(表 1, 2)。

表1. 大規模災害におけるDHEAT先遣隊の配置(役割)

支援場所	都道府県保健医療福祉調整本部	保健所	市町村保健福祉部局
支援分野	保健医療福祉全般 DHEAT都道府県調整本部が医療	(地域保健医療福祉調整本部 [※]) 保健福祉 (※の場合は保健医療福祉)	
支援対象	統括DHEAT(本部長補佐) ○保健師チーム調整担当と連携してDHEAT・保健師チームのロジスティック ○保健所または市町村から情報収集	保健所長 ※の場合、急性期ではDMATロジが本部長支援 避難所や在宅等の被災者の支援をする保健師チームの統括を担う被災県保健師	

※市町村に地域保健医療福祉調整本部を設置することも。保健所と市町村の支援・連携関係は被災状況等により変化。
R6年能登半島地震の急性期の地域保健医療福祉調整本部の本部長支援はDMATロジスティックチームが担っていた。

表2. 今後のDHEATとDMAT等との役割分担

保健活動フェーズ [※]	0・1 (発災72時間以内)	2 (避難所対策中心)	3 (仮設住宅入居まで)
保健	DHEAT・保健師チーム等		
福祉(急性期の要支援者の避難を含む)		連携・協力	被災地自治体
医療	DMAT, 日赤看護班等		

※出典：大規模災害における保健師の活動マニュアル全国保健師長会、平成25年7月)

急性期における DHEAT の活動としては、医療や急性期の要支援者の避難などを支援する DMAT などとの役割分担から DHEAT 都道府県調整本部において保健師チームなどと連携・協力して都道府県－保健所－市町村の層構造として保健・福祉を中心とした公衆衛生に関する情報収集を行い、被災地の支援体制の構築を図っていくことが DHEAT

の体制強化につながっていくと考えられる(図 3)。

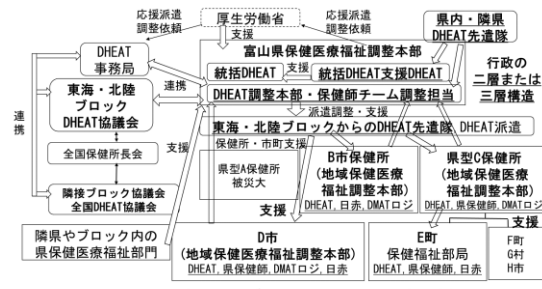


図3. R6年度東海・北陸ブロックDHEAT実働訓練派遣体制

以上のような組織体制を発災後、早期から整備していくためには近隣都道府県で構成される地方ブロック DHEAT 協議会内からの DHEAT 先遣隊の派遣が有効であり、このような組織体制の強化のためには日頃から地方ブロック DHEAT 協議会内で訓練を行い、初動体制、DHEAT 先遣隊の活動内容を明確化しておくとともに、いざという時の円滑な双方向的情報伝達のためにも地方ブロック DHEAT 協議会内の班員間が顔の見える関係は非常に重要である。

E. 結論：大規模災害において被災地に派遣される DHEAT 先遣隊が被災地でより有効に機能していくためには都道府県保健医療福祉調整本部内に DHEAT 全体を組織化しそのロジスティックスとなる DHEAT 都道府県調整本部の設置が必要である。

また急性期の大規模災害時において DHEAT 先遣隊がより早期から被災地での支援体制を構築していくためには地方ブロック DHEAT 協議会からの DHEAT 先遣隊の派遣が有効であり、より円滑にかつ体制強化を図っていくためには地方ブロック DHEAT 協議会などで定期的に災害訓練を実施していくとともに DHEAT の班員間での顔の見える関係づくりを行っていくことが重要である。

F. 研究発表

1. 論文発表

①小倉憲一：令和6年能登半島地震での富山県 DHEAT 派遣～都道府県 DHEAT 調整本部の必要性～. 北陸と公衆衛生第70号・9-13頁・2024年11月北陸公衆衛生学会発行

2. 学会発表

①小倉憲一：2024年1月1日発災の能登半島地震(M7.6). 令和6年度富山県厚生センター所長・支所長会研修(2024年5月7日、富山市)

②小倉憲一：能登半島地震を通して管理保健師に望むこと～保健医療福祉調整本部とDHEAT～. 令和6年度全国保健師長会富山県支部・富山県保健師長会研修会合同開催(2024年5月25日、富山市)

③小倉憲一：受入県の対応①富山県の対応。中部ブロック DMAT 能登半島地震対応検証会(2024年7月17日、金沢市)

④小倉憲一：富山県での初動対応と先遣隊 DHEAT としての経験～令和6年能登半島地震～. 第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会(2024年7月19日、鹿児島市)

⑤小倉憲一：東海北陸 DHEAT として、ブロック間の連携強化について～令和6年度東海北陸ブロック実働訓練～. 令和6年度東海北陸ブロック保健所長会保健所連携推進会議(2024年7月26日、岐阜市)

⑥小倉憲一：令和6年能登半島地震を踏まえた富山県での東海・北陸ブロック DHEAT 実働訓練について. 第38回公衆衛生情報研究協議会研究会(2025年2月27日、富山市)

⑦小倉憲一：令和6年能登半島地震を踏まえた富山県での東海・北陸ブロック DHEAT 実働訓練について. 令和6年度第1回福井県健康危機管理研修(2025年3月12日、福井市)

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 特になし
2. 実用新案登録 特になし
3. その他 特になし

H. 参考文献

- 1) 尾島俊之, 他: 令和3年度厚生労働省行政推進調査事業費補助金「保健医療福祉調整本部などにおけるマネジメントの進め方2022(暫定版)」. 2022年3月
- 2) 服部希世子, 他: 令和4年度厚生労働科学研究費補助金事業「DHEAT 活動ハンドブック(第2版)」. 2023年3月

令和6年能登半島地震を踏まえた富山県での 東海・北陸ブロック DHEAT 実働訓練について

小倉憲一 富山県厚生部医務課

平成29年7月5日付け厚生労働省5課局部長（いわゆるマネジメント）通知「大規模災害時の保健医療活動に係る体制の整備について」により、「大規模災害発生時に参集する保健医療活動チームの派遣調整、保健医療活動に関する情報の連携、整理及び分析等の総合調整を行う行政組織」の設置が国から各地方自治体に求められることとなった。

さらに保健医療分野だけでなく福祉分野の支援を行うチームとの連携・調整を行う重要性も鑑み、現在では大規模災害発生時に各地方自治体で「保健医療福祉調整本部」の設置が求められている。

また平成30年3月20日に厚生労働省健康局健康課長通知として「災害時健康危機管理支援チーム活動要領について」が発出され、災害時健康危機管理支援チーム(Disaster Health Emergency Assistance : DHEAT)が制度化された。令和4年、5年にはその活動要領が改正されている。

さらに令和4年3月29日付けの通知により各都道府県は「保健医療福祉調整本部」の機能強化並びに被災保健所等との連携強化を行う「統括 DHEAT (公衆衛生医師等)」を被災都道府県から任命しておくこととされた。令和4年3月、一般財団法人日本公衆衛生協会に DHEAT 事務局を置き全国 DHEAT 協議会及び、令和5年3月以降、地方ブロック DHEAT 協議会が組織化され、その組織体制が強化されることとなった。

令和6年1月1日16時10分に最大マグニチュード7.6の能登半島地震が発生した。本災害では厚生労働省等の調整により34の自治体から22チーム104班(標準的には1班あたり医師や保健師、事務職等の5人)の DHEAT が派遣され、石川県庁や能登北部保健福祉センター(県型保健所)、珠洲市、輪島市、穴水町、能登中部保健福祉センター(県型保健所)等の被災自治体で災害マネジメント支援等の活動を行った。

令和6年能登半島地震での「富山県保健医療福祉調整本部」の設置と富山県 DHEAT の派遣を踏まえて、富山県内での地震発生を想定した令和6年度東海・北陸ブロック DHEAT 実働訓練を実施した。本稿ではその概要について報告する(表1)。なお実働訓練翌日午前に訓練の振り返りを行った。

表1. 令和6年10月21日 東海・北陸ブロックDHEAT実働訓練

時刻	活動内容
8:30	呉羽山断層帯地震発生M7.2(射水市震度6強、富山市・立山町震度5強)。実働訓練開始(富山県内)。
9:00	富山県保健医療福祉調整本部設置(県庁本部)。
9:15	本部CSCA確認(関係機関への連絡)。
9:30	保健所活動開始(保健所現状報告システム入力)。
	医療機関と保健所等の被害状況確認。
	EMIS入力、保健所現状報告システム入力確認。
10:30	医療機関・消防機関・保健所等を通じて医療ニーズ把握・避難所の設置状況等の確認開始。
(13:00)	DMAT調整本部設置、日赤支那リゾン県庁本部到着。
(15:00)	東海北陸ブロック各県にDHEAT派遣要請、保健師派遣要請。
10:30	富山市保健所、射水市本部活動開始、ファシリテーター配置。
2日目	11:00 富山県DHEAT先遣隊・県庁到着、DHEAT調整本部設置、DMATロジスティックチーム・富山市保健所と中部保健所、射水市へ派遣され到着。保健所、射水市に地域保健医療福祉調整本部設置(CSCA確認)。

3日目	13:00	実働訓練開始3日目(東海北陸ブロック各県)。 富山県DPAT調整本部、IHEAT調整本部設置。 県外DHEAT県・富山県、地域保健医療福祉調整本部順次到着。 日赤救護班・富山市保健所と射水市、立山町に到着。県保健師:中部保健所と射水市へ派遣され到着。 DHEAT先遣隊:県庁本部、富山市保健所、射水保健所、中部保健所に到着。 立山町本部活動開始。 県保健師:立山町へ派遣され到着、立山町保健福祉本部設置(CSCA確認)。 県外DHEAT:県本部よりエンターション後、富山市保健所、射水市、中部保健所へ
	13:30	県外DHEAT:富山市保健所、射水市、中部保健所に順次到着。富山市保健所、射水市、中部保健所で県外DHEATへのオリエンテーション(CSCA確認)。 県外DHEAT:富山市保健所、射水市、中部保健所で活動開始(地域保健医療福祉調整本部本部長、統括保健師支援)。 保健医療福祉ニーズの把握(EMIS確認、D24H Survey確認)、保健師チーム等の避難所への派遣調整。保健所・市町でD24H Surveyへの入力。
	15:45	県と地域保健医療福祉調整本部内会議、市町保健福祉部内会議。
	16:15	富山県保健医療福祉調整会議(行政層間、ZOOM)。
	16:45	実働訓練振り返り。
	17:00	実働訓練終了。

本実働訓練での目標を「発災後 CSCA から3日目までの初動対応全体像の把握」として、東海・北陸ブロック内の各県 DHEAT が富山県保健医療福祉調整本部および被災保健所、市町本部へ派遣され訓練を実施することで、DHEAT の CSCA の初動対応(DHEAT 派遣調整システム入力を含む)と、「行政の二層または三層構造」での避難所等の被災者の把握(災害時保健医療福祉活動情報システム-D24H-の活用を含む)、DHEAT 体制強化の課題の検討等を行い、今後の東海北陸ブロックの DHEAT 連携体制の構築を図ることを目的とした(図1)。

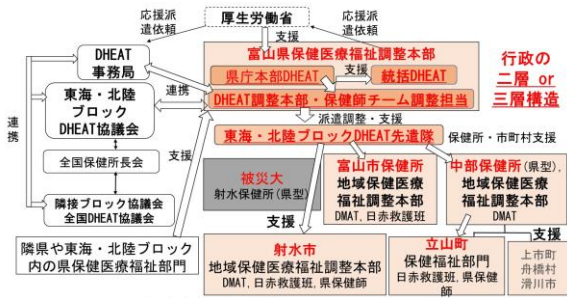


図1. R6年度東海・北陸ブロックDHEAT実働訓練組織図

今後、災害現場に派遣される DHEAT 全体の司令塔となる「DHEAT 都道府県調整本部（仮称。以下「DHEAT 調整本部」という）」の必要性や、「統括 DHEAT」の位置付け、「都道府県保健医療福祉調整本部」や「地域保健医療福祉調整本部」等の被災地域での「DHEAT 先遣隊」の活動の在り方については、さらなる検討の必要がある（図 2）。

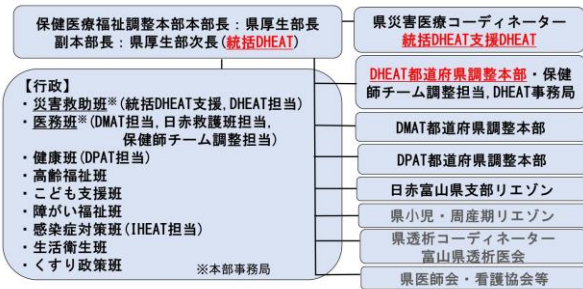


図2. 富山県保健医療福祉調整本部組織図

都道府県が保健医療福祉活動の総合調整等を適切かつ円滑に行えるよう、被災地の保健医療福祉ニーズの把握や、保健医療福祉活動チームの派遣調整等に係る助言及び支援を本部長に対して行う「統括 DHEAT」が現地に派遣される DHEAT 全体の司令塔として、その要請や取りまとめを行うロジスティックとしての実務を担っていくことは、特に大規模災害においては困難であると同時に適切な役割分担ではない。

富山県での今回の訓練では DMAT が医療を、この「DHEAT 調整本部」が統括する DHEAT が保健福祉を中心となって担っていくこととした。「都道府県保健医療福祉調整本部」に入った DHEAT の県庁本部内での支援活動としては「統括 DHEAT」への支援と、「DHEAT 調整本部」での活動に分けて役割を考える必要がある。

「DHEAT 調整本部」は厚生労働省の DHEAT 事務局や都道府県の保健師チーム調整担当と連携しながら現地へ派遣する DHEAT の班数やチーム数、派遣期間等を調

整していくとともに、派遣される DHEAT 全体のロジスティックとしての役割を果たしながら、派遣された DHEAT や保健所等を通じて保健福祉ニーズに関する情報を得ていくこととなる。本実働訓練では「DHEAT 調整本部」と県庁本部の保健師チーム調整担当、DHEAT 事務局との連携の必要性から「富山県保健医療福祉調整本部」での座席の配置を図 3 のようにした。

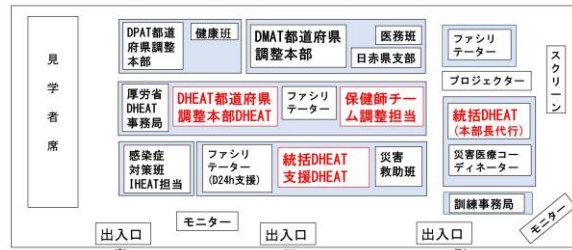


図3. 富山県保健医療福祉調整本部座席図 (R6年度東海・北陸ブロックDHEAT実働訓練)

今回、富山県 DHEAT は令和 6 年能登半島地震において現地に最初に入った「DHEAT 先遣隊」となった。「DHEAT 先遣隊」については隣県等の利点を生かした、全国 DHEAT 協議会の地方ブロック等からの優先的な派遣が有効であると考えられた（表 2）。

表2. DHEATの派遣先と役割

DHAET	県・地域保健医療福祉調整本部		市町村保健福祉部局
	県本部 DHEAT調整本部	保健所 (地域調整本部)	市町村※
支援対象 ①or②	①統括DHEAT ②DHEATチーム調整本部・保健師チーム調整担当	①本部長 ②保健師チームを統括する保健師	①本部長 ②保健師チームを統括する保健師
主な役割	保健医療福祉に関する被災状況把握 保健医療福祉活動チーム派遣調整	保健医療福祉に関する被災状況把握 保健医療福祉活動チーム派遣調整	保健医療福祉に関する被災状況把握 保健医療福祉活動チーム派遣調整

※保健所と市町村の関係は被災状況等により変化。
市町村に地域保健医療福祉調整本部を設置することもある。

また「DHEAT 先遣隊」については令和 6 年 10 月 24 日厚生労働省健康・生活衛生局健康課長通知で「災害時健康危機管理支援チーム活動要領」の一部が改正され、「DHEAT 先遣隊」を災害発生急性期（概ね 48 時間以内）に派遣することにより、被災都道府県等の被害状況等に係る迅速な情報収集、保健医療福祉調整本部の速やかな設置及び運営の支援を目的とした「DHEAT 先遣隊派遣事業」を実施することとなった。

本地震での DHEAT 派遣を通じて「DHEAT 先遣隊」を含めた現地に派遣される DHEAT 全体のマネジメントを行う「DHEAT 調整本部」を、「都道府県保健医療福祉調整本部」内に設置する必要性を強く感じた。